

「元町・夢街道」
書店の話(11)
鳩居堂(10)
岩田 照彦

教科書を活用する側の生徒数の動きをみてきたが、教室ではどんな教科書が使われていたのか。兵庫県教育史から、明治十年「兵庫県小学教則」のうち下等小学第八級（一年前期）とある部分の教科内容を紹介しよう。

読書五十音、いろは、仮名の読み方、単語の第一から第八までと、連語第一から第十までと単語の綴り字。

習字 石板を使い仮名の字形を習い、習字本により執筆、運筆を学ぶ。（毎日四十分）

算術 数字の読み方と書き方、物の数え方、千以下の位取り、掛け算割り算の九九を学ぶ。（毎日一時間）

問答 教師が単語や実物模型を示し、生徒がその性質、用法などを答える。（毎日四十分）

書取 五十音、いろは、濁音、清音などを書きとる（毎日二十分）

口授 物品談Ⅱ単語、実物模型につき、その性質、用法などの講義

修身談Ⅱ勸善懲惡を説く。（毎日二十分）

画法 小学図画書等により、石板を用い

て画かせる。（毎日二十分）

体操 体操書を手本におこなう。（毎日十五分）

唱歌 当分乏を欠く

教科書は、次のようなものである。下等小学用として、掛図（師範学校集）、修身口授（文部省）、勸善雑和（文部省）、小学画学書（文部省）、小学綴字書（文部省）、小学読本巻一・二（師範学校編集）、習字読本（小倉庫二編・村田海石書）、地理初步（師範学校編集）、日本地誌略（師範学校編集）、小学読本（田中義廉編）、日本略史（文部省）、万国地誌略（東京師範学校編）、博物誌（文部省）、万国史略（文部省）、体操書（文部省）。

上等小学用書として、日本地誌要略（開成学校版）、図法階梯（開成学校版）、修身論（文部省）、体操書（文部省）、日本略史（兵学寮編）、万国地理小誌（近藤圭造編、和学須知（岡本則録編）、小学日本文典（田中義廉編）、万国史（也来氏著・文部省訳述）、経済要旨（文部省）

教科書は文部省の管轄化にあり、熊谷久栄堂は印刷製本の上、兵庫県を通じて各学校へ納品、教科書をサポートする書籍の出版に力を入れていたことが分かる

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 5月

- ◇元町1番街商店街振興組合 TEL331-7850
元町占い市 5月9日(水)12時～17時
元町1番街水曜市 5月16日(水)10時～19時
- ◇元町3丁目商店街振興組合 TEL322-2797
GW記念撮影会in MOTOMACHI3
5月5日(土)12時～17時
- ◇元町6丁目商店街振興組合 TEL367-5477
元町6丁目鯉のぼりロード
4月21日(土)～5月18日(金)
- ◇風月堂ホール(有料) TEL321-5555
もとまち密席「愚雑亭」
5月10日(木)
桂 吉弥 林家 菊丸 桂 かい枝
桂 文鹿 桂 春蝶 桂 米紫
前売券は4月11日より風月堂で発売
- ◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523
5月3日(木)～5月8日(火)
「時空・港神戸」展(写真・その他)
5月10日(木)～5月15日(火)
第36回本彩会 絵画展(油彩・水彩)
5月17日(木)～5月22日(火)
第30回彩悠会 展覧会(油彩・水彩)

編集後記

神戸孝平の生誕地から、同氏の功績を学びに神戸まで足を運ばれた内容を紹介して頂いたお礼に、今回は、同地からいただいた案内書を参考に、神戸市内読者のため、垂井のまちを紹介することにした。神社仏閣に祭りとお水のまちだが、関ヶ原に接するまちは、豊臣秀吉の参謀として活躍した竹中半兵衛重治の出身地でもある。戦に勝つことよりも、戦で困窮した民衆の心や暮らしを安定させることが大切、と闘わずして勝つ秘策にこだわった半兵衛の生き様も、また魅力的だ。神戸孝平と竹中半兵衛重治、両者の知恵を育んだ垂井町に興味ある方は観光協会まで。

0584-122-1151

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は4月13日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海三丁目自治会)奈良山喬一、(神戸市住宅都市局)坂田竜一・田中淳也、(広島銀行)平野直哉・平田彩乃、(トマト銀行)杉本沙織、(兵庫県信用組合)城隆輔・杉浦早紀、(パナソニックホームズ)堀裕臣・宮崎哲弘・鈴木京子、(大一産業(株))渡部友貴、(株)神明)砂古陽菜、(株)イーエスプランニング)藤岡美玲、(佐野運輸(株))北島幸宏・末松明、(走水神社)児嶋英毅、(まちづくり会館)小椋辰海、(新光明寺)中川俊・篠原博明・西村友博、(佐田野不動産(株))佐田野宏之、以上22名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



みなと元町
Town News

タウンニュース

No. 309

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

神田孝平(第7代兵庫県知事)が生まれ育った岐阜県垂井町のいま
中山道 垂井宿を中心に、時代の面影を今に伝えながら外国人が働く工場も

33歳の神田孝平
(歴史民俗資料館・神田孝平増城写真より、5割)

月号で、兵庫県の第7代県令(知事)神田孝平の神戸における活躍ぶりを、孝平の出身地である岐阜県垂井町の内海清明氏に紹介していただいた。知事・神田孝平により親しみをもっていただくため、生誕地である「垂井町のいま」を、歩いてみたい。

神田家の邸宅は、岐阜県垂井町岩手572番地ー1、いま邸宅はなく、畑地になっている。3歳で父を亡くすが、頼山陽らとも交遊があった叔父・神田柳溪の元で教育を受け、京都へ出る17歳まで過ごした垂井町である。

面積は57平方キロ、人口約2万7千人、ほかに外国人はブラジル人を中心に中国人など約800人が登録されている。まちの産業は、豊富な水に恵まれた農産品のほか金属業の総本宮とされる南宮大社の縁で航空機用部品や油圧機械、アルミサッシなど金物製品などが多い。

まちの中央を東西に走るのは中山道だ。垂井宿として、人の行き交う町だった。街道には、安永6年(1777)に建てられ、鶯張りの廊下ものこされている旅籠「亀丸屋」の建物があり、昨年まで旅館として営業して



中山道垂井宿(垂井町観光協会提供)

いた。小林家の主屋は江戸時代油商人の家だった。土蔵造りで、軒下には火災のとき延焼を防ぐための濡れむしろをかける鉤が残る。明治のはじめから旅館になり、横綱の双葉山も泊まった記録がある。その他、天保7(1836)年、浪花講道中記に登場する丹波屋・松井家、焼杉板鎧張りの黒い外壁に風情のある磯野家の蔵など、歴史的な家屋が点在する。

神社仏閣では、鉢山・金属業の総本宮として崇敬を集める南宮大社のほか、地方豪族伊福部氏をまつる伊富岐神社、真言宗布教のためやってきた空海の開基と伝えられる菩提寺、松尾芭蕉が滞在した本龍寺、趣のある参道と山門のある正行院がある。垂井町が誇りとする人物のひとりに戦国時代の武将・竹中半兵衛がいる。その像は3か所にあり、半兵衛の子・重門が築いた竹中家陣屋門には楼門も残る。半兵衛は、兵庫三木城攻めの最中、病で他界、墓は本陣のあった三木市の平井山にあるが、子の重門が垂井にも、と建立した禅庵寺がある。



南宮大社(垂井町観光協会提供)

祭り好きな町である。毎年4月第2日曜日、五穀豊穰と安全を祈願して11種類の舞を奉納する伊富岐神社の伊吹祭。5月2日～4日垂井祭りが行なわれ、漆塗りに蒔絵や彫刻金具を施した豪華な曳やま3両が、町内を豪快に曳きまわす。2日ののぼりやま、3日の3両そろっての神前奉芸、宵闇のなか、ちょうちん・ぼんぼりに浮か上がるや

まは幻想的だ。やまの舞台で、男の小学生が演じる子供歌舞伎はまち挙げての楽しみな行事。5月4日、南宮大社で行われる農作物の豊穰を願う御田植祭は、囃子方の田植え歌にあわせ3～5才の少女が苗に見立てた松葉を植え付ける。翌5月5日に行われる南宮大社例大祭では、南宮大社から御旅神社間2キロを3基の神輿が通い、蛇山神事や還幸舞などを披露する。9月には、かつての宿場町を再現するため「中山道垂井宿まつり」が、垂井宿一帯で繰り広げられ、姫君の下向行列が楽しみだ。10月の第一日曜



カフェ・フランドル(垂井町観光協会提供)

日に開催される表佐太鼓踊りは雨乞いに関係したもののだが、いまや太鼓の大きさを競う祭りとして街の人を楽しませている。

名物の桜もにぎやかだ。町を東西に流れる相川には、大正時代に街の若者が植えた満開のソメイヨシノ200本に、全国から寄贈された鯉幟350匹が薫風のなか競演する。そのほか大日如来を本尊とする朝倉真禅院の三重塔を引き立てる桜、大慈寺の寄り合い桜、八重垣神社のしだれ桜など、桜の園も魅力的。

「垂井」という地名を生み出しただけに、こんこんとわき出る水は地元の名物だ。遠く名古屋からも汲みにやってくるほどきれいな真水が湧き出る裏清水、地元の人17軒が当番制でまもる生活用水の古清水がある。元禄4年、こんこんとわき出る垂井の泉に出会った松尾芭蕉は詠んでいる。
葱白く 洗ひあげたる 寒さかな

海という名の本屋が消えた (54)

平野義昌

松方幸次郎 その4

夏目漱石門下・野上弥生子が《松方コレクション》展のことを小説に書いている。〈……真知子はM——という富豪の有名な洋画の蒐集を主として、半月ばかり前から上野で催されている展覧会が、今日で終る話をした。／「よかったら、一緒に行って見ない。」》^{註1}

主人公・真知子は良家のお嬢さん、向学心高く、大学で聴講。「松方氏蒐集欧州美術展覧会」（東京府美術館）を見ないのは惜しい、と友人・米子を誘う。

〈十八九世紀のイギリス及びフランスの代表画家の作品を主として、一層古いフランドル派や南欧のものさえ交えた豊富な蒐集は、これまで写真版で想像したり名前を聞いたりしていた画家たちの原作を見せて呉れる点だけでも、貴重な観物であった。》^{註1}

野上は別の登場人物の発言として、展示品の何倍も蒐集品があることを「大したもの」と評価しつつ、松方幸次郎に対して辛辣なことも書いている。〈……M——さんなんて人間が一代にあれだけの富を成すには碌なことしていないのは事実だが、こういう画を日本のものにした功績で、過去のことは帳消しにしてやってもいいだろうて。》^{註1}

この展覧会は1928(昭和3)年3月に開催された《松方コレクション》売り立てのための第1回美術展のこと。90万円余りを売り上げ、以後34(昭和9)年11月の第7回まで合計金額は230万円である。その後も《松方氏蒐集》と銘打った売り立て展が開催された。

〈……作品の売り立てが開催の主目的とは言え、多くの若手画家を含む当時の人々には貴重な西洋絵画の展覧となった。「ひとつわしがヨーロッパの油画の本物を集めて、日本に送って見せてやろうと思っている」と語った松方幸次郎の蒐集目的は、奇しくもコレクション散逸期の大量公開でようやく実現したといえようか。》^{註2}

売り立て展は幸次郎にとってコレクションとの別れだが、西洋名画が多くの人の目に触れ社会に普及する役目を果たした。〈絵画の中で、セザンヌ、モネなどの超一級品は、公開の売り立て展の前にひそかに売りさばかれた、と伝えられる。場所は十五銀行内、集まったのは財界人や富豪といわれるが、定かではない。》^{註3}

個人の所有になった絵は税金問題などで秘密裡に人から人に渡り、行方知れずになる。海外に流出してしまうこともある。まさに「散逸」である。〈それでも、散逸して国内にとどまった多くの作品は、個人や会社のハレの場所の壁を飾り、日本人と西洋画との距離を縮めたことは確かだろう。》^{註4}

画商たちは名画を扱うことで審美眼を高め、職業として市民権を得た。何より経済的基盤を固めることができた。

浮世絵コレクションは川崎造船所の債務整理が進んだ結果、幸次郎に戻されることになった。38(昭和13)年、幸次郎は十五銀行を通して皇室に献上した。44(昭和19)年になって、「松方コレクション浮世絵版画」7996点(8204枚)は宮内省から帝室博物館(現東京国立博物館)に移管された。^{註4}

なぜ十五銀行は浮世絵を売らなかったのか。

〈「一括して購入したい」という人もいたが、銀行の内外から売却に反対する声が強かった。海外に流出した作品を幸次郎が買い戻したといういきさつに加え、写楽など日本美術界の至宝を金に換えることに心理的な抵抗があったのだろう。》^{註3}

ヨーロッパに残ったままのコレクションはどうなったか。

ロンドンの保管品はパンテクニカン倉庫に預けられていた。ここは馬車、ワイン、美術品の販売と収蔵を専門にして、防火と換気設備が整っていた。ところが、39(昭和14)年10月、倉庫は漏電で火事、幸次郎の美術品約300点は焼失してしまった。諸刃の剣と言うべきか、細かく仕切られた鉄壁が消火を妨げた。保険金8万1千ポンド余りが十五銀行に支払われた。^{註5}

2016(平成28)年2月、ロンドンのテート美術館アーカイブで「パンテクニカン倉庫保管絵画等リスト。松方幸次郎氏資産」という文書が見つかった。現在国立西洋美術館で確認調査が進んでいる。^{註6}

パリ保管品は当初ロダン美術館(パリでの相談役、レオンス・ベネディットが館長)に保管されていた。40(昭和15)年5月、ドイツ軍がパリに迫り、幸次郎から管理を託されていた日置釦三郎は80キロ離れたアボンダン村に疎開させた。戦禍もあるが、ドイツによる略奪を恐れた。

〈……ロダン美術館の一室から、特製の本箱を造って作品を納め、トラック3台に美術品を積みこんで、夜のうちにアボンダンのその民家の「母屋」に運びこんだのである。梱包、輸送費は、作品の一部を売却して捻出した。》^{註4}

日置は元海軍大尉で川崎造船所嘱託技士、フランス女性と結婚していた。夫妻は民家の納屋に住み、自分たちの生活より美術品を優先した。戦争が激化し、幸次郎から管理費用の為替が届かなくなった。日置は幸次郎の了解を得て、美術品の一部を売却して生活費と管理費に当てた。^{註5}

パリ解放後、フランス政府がコレクションを没収、維持費用のために29点を競売した。残りの絵も戦後賠償費用のため売却の動きがあった。51(昭和26)年9月、サンフランシスコ講和条約締結直後から、吉田茂首相はフランス政府に《松方コレクション》返還交渉を始めた。

幸次郎は50年6月死去、享年84歳。ついに自らのコレクションと再会することはできな

かった。戦後、幸次郎の甥で娘婿・松本重治(国際ジャーナリスト)がフランスに返還の意思ありの情報を得て、病床の幸次郎にサインの練習をさせたという話がある。^{註3}

日本政府は全作品返還を望むが、フランスは10数点を残したいと言う。ゴッホ、ゴーギャン、ピカソ、ロートレック、セザンヌなどなど、「重要性、希少性によってフランスの文化財とみなされた」作品である。^{註4}

松方家はルノワール「アルジェリア風のパリの女たち」とゴッホ「寝室」の返還を希望した。結局19点が返還から除外された。在仏日本大使は政府に、これ以上要望すれば返還そのものが危うい、と報告している。^{註3}

53(昭和28)年8月、日置がフランス政府に対して返還を要求。自分が管理を任されていた、贈与されていた絵もある、と主張した。日本大使館が日置と接触し、54(昭和29)年9月、毎月5万フランを5年間支給することで日置の権利放棄が決まった。日置は大使館員に、「絵を無事に松方氏に返すのが生涯の事業であり、返還を妨げる気持ちは毛頭ない」と語った。同年12月に日置は急死する。支給金は夫人に払われた。^{註3}

59(昭和34)年、《松方コレクション》は日本に返還、新築の国立西洋美術館に収蔵されて今日に至っている。受け入れ美術館建設にあたって、神戸市も手を挙げた。用地も資金もない、ただ「松方幸次郎と神戸」という縁だけだった。^{註3}

前号原稿を提出後、新聞に《松方コレクション》記事があった。幸次郎がクロード・モネから購入した「睡蓮——柳の反映」がルーブル美術館で見つかり、日本に返還されたというニュースだ。画面半分が失われている。国立西洋美術館で修復し、来年公開予定である。写真

遅れて帰ってきた《松方コレクション》を喜びたい。

註1野上弥生子「真知子」(『改造』『中央公論』1928年～1930年掲載、『日本文学全集第24巻』筑摩書房、1977年より引用、原文は旧かな)
註2 廣田生馬「松方コレクションと大正・昭和初期の日本の洋画界」(《松方コレクション展——松方幸次郎夢の軌跡——》カタログ、神戸市立博物館、2016年、以下「カタログ」)
註3神戸新聞社編「火輪の海——松方幸次郎とその時代——(上・下)」神戸新聞総合出版センター 1989～90年
註4 岡泰正「松方コレクション考」(「カタログ」)
註5石田修大「幻の美術館 甦る松方コレクション」丸善ライブラリー、1995年
註6国立西洋美術館ウェブサイト「お知らせ 2016.9.6」
http://current.ndl.go.jp/node/32476

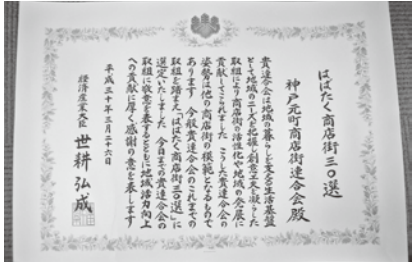


写真「朝日新聞」2018.2.27夕刊

出来事ファイル (No.18-5)

■元町商店街 はばたく商店街賞に

元町商店街は、外国人旅行者のためガイドブックの多言語化(英・中・韓)に取り組むほか、着物の着付けやお茶会などインバウンドへの対応、一般公募によるイベント案募集、大規模住宅の増加に対応するため地元大学との提携、防災や子育ての面から、空き店舗を活用した「ぽかぽぽぼモトロク」設営など多方面な活動が認められ3月26日、はばたく商店街賞を受賞した。



■モトロク灘の酒ストリート

元町6丁目商店街は3月23日(金)～24日(土)の両日、灘の酒と兵庫の食を楽しむ「モトロク灘の酒ストリート」を開いた。今津・西宮・魚崎・御影など灘五郷の酒蔵が多数出店していることから試飲用のチケット(1,000円5枚つづり)も準備、灘の酒にあう有名店のおつまみに酒饅頭まで勢揃い、音楽ステージもあつて両日とも夕刻から、6丁目商店街は日本酒ファンで賑わった。



■神受け神事厳粛に

三宮地区の奉仕で行われることになった今年の生田祭、元栄海地区では神受所巡拝の場所として、元町3丁目商店街マスマヤ(榎)前に設定、4月15日午後1時過ぎ、地域役員が待ち受けるなか巡拝の一行が到着、玉串奉納、巫女による参列者へのお祓い、そして猿田彦と梶原武者による神事は、道行く人の足をとめ、きらびやかな衣装をまとう優雅な演舞にみとれていた。



■元町1番街で占い市

3月14日第2水曜日、元町1番街商店街で占い市が開かれた。夏場と冬場を除き2016年6月から、毎月第2水曜日開催の行事で、ジェムビル内で営業してきた占い師たちが出店、手相、気学、靈感タロット、五行易、数霊、姓名判断、四柱推命、九星気学、風水、マナカードなど、多彩な占いで人気を集め、12時～17時まで、商店街を占いのまちに変身させた。



■読者プレゼント

特別企画展「線路はつづく」 兵庫県政150周年記念事業として、兵庫県立歴史博物館では、鉄道輸送を足元で支えてきた開業初期の軌道を中心に「レールでたどる兵庫5国の鉄道史」を開催する。観覧ご希望の方は、はがきに住所・氏名・年齢・本紙へのひとことを添えて編集部まで。 先着順で5名の方にペア招待券をお送りします。 場所 兵庫県立歴史博物館 ☎079-288-9011 期間 4月28日(土)～6月17日(日)



■まちなつくり会館 コースセミナー開幕

（旬きんもくせい代表・天川佳美）は、こうべま ちづくり会館の図書室管理をはじめた(一〇一四年からユースセミナーを展開してきたが今年一月、全コースを修了した。初年は、神戸大学生のグループと大槌町(岩手県)の交流が中心で、一般の参加はなかったため二年目からの歩みを紹介する。まちづくり会館での講演が中心だが、講座によっては現地見学会も行われた。



二〇一五年

五月十七日「神戸のまちづくりの歴史」 講師〓鳥居 聡・垂水英司・小林郁雄
六月六日「守り育てる神戸のまちなみについて」 講師〓安田丑作・山本俊貞
まち歩き 七月十四日 旧居留地周辺
案内人〓松岡辰弥
八月一日「神戸の密集市街地」 講師〓宮西悠司・橋本 彰 進行〓近藤民代
まち歩き 九月二十日 真野地区
案内人〓清水光久
十月三日「ユースタウン計画が目指したこと」 講師〓伊藤文平・小林郁雄・宮本万理子
まち歩き 十月三日 六甲アイランド
案内人〓小林郁雄
十二月五日「こうべのまちづくりにおもつ」 講師〓白国高弘・内田恒・村上しほり
一月十八日「17x21mの集い」 講師〓小林郁雄・寺本雅夫・重村力・松原永季・橋爪紳也・近藤民代・岡本知佳子・村上しほり

二〇一六年

六月四日「砂防とレクリエーションと外国人墓地 五月十七日まち歩き」 講師〓重藤洋一
八月六日「神戸の農村文化と田園都市構想」七月 百現地見学 講師〓斎木崇人
十月一日「神戸水際・ウオーターフロント整備」(九月三日まち歩き) 講師〓小林郁雄
十二月三日「商いの街・元町の今昔」(十二月五日まち歩き) 講師〓藤井さち子・岩田照彦
一月十五日「記念フォーラム 神戸都心の未来の姿」 講師〓加藤恵正・村上豪英

二〇一七年

五月十三日「都心再整備の全体像」 話題提供〓神戸市 ゲスト〓末包伸吾
現地見学 六月〇日 東遊園地フェアーマーズマーケット 案内〓稲葉澪星
七月一日「都心の土地利用」 話題提供〓神戸市 ゲスト〓村上豪英
九月一日「都市のデザイン」 話題提供〓神戸市 ゲスト〓吉川公二
十月七日「都市の安全・安心」 話題提供〓神戸市 ゲスト〓近藤民代
十一月四日「都心の回遊」 話題提供〓神戸市 ゲスト〓嘉名光市
十二月一日「都心の運用」 話題提供〓神戸市 ゲスト〓永田宏和
おわりに久元喜造・神戸市長からフォーラムへのメッセージの一部を紹介しておこう。
神戸に住み、働き、神戸の未来のために何ができるのかを 考えて頂いたことに心から感謝申し上げます